

授業概要

哲学の重要概念について一つずつ学びます。抽象的なことがらが多く出てきますが、歴史上の哲学者の思想の例に引きながら、わかりやすく解説していきます。

授業を通して、それまで縁遠いものと感じられていた哲学についてより身近に、かつ主体的に考えられるようになることを心がけていきましょう。

授業計画

第1回	哲学とはどういう学問か 哲学の歴史と対象
第2回	認識論(1) 古代ギリシャの認識論(1) ソクラテス、プラトン、アリストテレス
第3回	認識論(2) 古代ギリシャの認識論(2) ソクラテス、プラトン、アリストテレス
第4回	認識論(3) 中世哲学の認識論 プロティノス、アウグスティヌス
第5回	レポートの書き方(1)
第6回	認識論(4) 近世哲学の認識論(1) ベイコン、デカルト、パスカル、スピノザ
第7回	認識論(5) 近世哲学の認識論(2) ロック、ヒューム、ミル
第8回	認識論(6) 近代哲学の認識論(1) カントの批判哲学
第9回	認識論(7) 近代哲学の認識論(2) ドイツ観念論
第10回	レポートの書き方(2)
第11回	認識論(8) 近代哲学の認識論(3) ショーペンハウアー、ニーチェ
第12回	認識論(9) 現代哲学の認識論(1) フッサール、ハイデガー
第13回	認識論(10) 現代哲学の認識論(2) イギリスとフランス
第14回	形而上学(アリストテレス、カント、ハイデガーほか)
第15回	全体のまとめ
第16回	筆記試験(教場レポート形式)

到達目標

- 哲学の主要な概念について理解する。
- 哲学を身近なものと感じ、主体的に考えられるようにする。
- 哲学的な思考法を身につけ、さまざまな学問に適用できるようにする。

履修上の注意

- 「哲学」を履修しておくことが望ましいですが、初心者にも十分に配慮します。
- 既習内容についてはこまめに復習して定着させるよう努めましょう。
- 疑問点を日頃から用意し整理しておきましょう。

予習復習

- 授業で学んだことは必ず復習すること。
- 次回以降の課題についても、自分で調べられるものは読んでおくなどするのが望ましい。

評価方法

- 平常点(レビューシート等による授業への積極的な参加) 50%
- 筆記試験(教場レポート形式、あらかじめ提示された課題について論ずる。自作ノート持込可) 50%

テキスト

- 教科書：『哲学・倫理学の歴史』伊野連著、三恵社、2016年刊。
その他、パワーポイント、プリント等を配布することもあります。
- 参考書：『ドイツ近代哲学における藝術の形而上学』伊野連著、リベルタス出版、2012年刊。
それ以外のものはそのつど教室で指示します。